特集
広域連携

東胆振が連携し、食と観光による地域活性化を目指す

◆東胆振地域ブランド創造協議会事務局（まちなか再生主幹 TEL 32-6062）◆

平成22年10月「食と観光フォーラム」

将来を見据え、まちを越えて、手を取り合う

現在、各地で人口減少、少子高齢化などの影響により地域経済は弱体化傾向にあり、東胆振地域も例外ではありません。また、地域間競争が激しさを増し、地域の独自性が問われる時代となっています。今後は、選ばれる地域を目指し、魅力向上に努めていかなければなりません。

東胆振は食材や物産、自然などの豊富な地域資源があり、交通の利便性からも観光地としての潜在性は高い地域と言えます。今までは、個々のまちでの取り組みでしたが、これからは近隣のまちが連携することで、各まちの強みを活かし、弱点を補完することが可能となり、相乗効果が期待されます。

こうした中、東胆振での広域連携のあり方を考えるため、平成22年10月に「食と観光フォーラム」が開催され、苫小牧出身でテレビでも活躍している評論家木元教子（きもとのりこ）氏の講演と1市4町（苫小牧市、白老町、厚真町、安平町、むかわ町）の首長によるパネルディスカッションが行われました。フォーラムを通して、東胆振が密に連携していくことや組織体制を整える必要性が確認され、同年12月には「東胆振地域ブランド創造協議会」が設立されました。

協議会では各まちの若手職員で構成するプロジェクトチームが、食と観光を柱に、地域全体のブランド力の創造、発信に向けて新たな取り組みを進めています。

昨年度からは、北海道の地域づくり総合交付金を活用し、東胆振の魅力の発信、交流人口の拡大を目指し、さまざまな事業を展開しています。

その中で、観光の現状とこれからの需要を把握するために、地域住民と観光客、大都市圏を対象としたマーケティング調査を行いました。

この調査結果に基づいて、事業展開することにより、効果的で客観的な事業の展開が可能となります。

「ほかとはちがう」地域ブランドで地域活性化を目指す

地域ブランドとは、その地域に存在する自然、歴史、文化、食、観光地、特産品、産業などの地域資源の「付加価値」であり、そのブランド